

2007年度決算説明会

中期経営計画(2007~2009年度)

「ステージアップ2009」の進捗

—— 2008年5月19日(月) ——

宇部興産株式会社

説明内容

1 2007年度決算と2008年度業績予想

中期経営計画(2007~2009年度)

2 「ステージアップ2009」の進捗

1. 持続的成長が可能な収益基盤の確立
2. 財務構造改革
3. CSR活動の深化

3 参考資料



1

2007年度決算と2008年度業績予想

◎各利益項目は過去最高、売上高は2位(1991年度の7,100億円に次ぐ)

(単位：億円)

項目	'06年度	'07年度	差異	要因
売上高	6,556	7,042	486 (+7.4%)	原料価格の転嫁、石炭等数量増
営業利益	468	559	90 (+19.3%)	化成品・樹脂製品のスプレッド 拡大ほか
経常利益	431	467	35 (+8.2%)	営業外での為替差益縮小ほか
当期純利益	220	240	20 (+9.2%)	
純有利子負債	2,987	2,756	△230	
自己資本	1,725	1,938	212	
配当 (円/株)	4.0	5.0	1.0	

項目	単位	'07年度		'09年度	
		実績	償却制度 変更前	中計目標	償却制度 変更前
ネットD/Eレシオ	倍	1.4	—	1.3未満	—
自己資本比率	%	26.9	—	30以上	—
売上高営業利益率	%	7.9	8.4	7.5以上	8.2以上
総資産事業利益率	%	8.2	—	7.5以上	—
自己資本当期純利益率	%	13.1	—	12以上	—
売上高	億円	7,042	—	7,000以上	—
営業利益	億円	559	591	530以上	575以上
事業利益	億円	586	618	560以上	605以上
純有利子負債	億円	2,756	—	2,790未満	—
自己資本	億円	1,938	—	2,180以上	—

◎市場環境は先行き不透明、原燃料価格は一層高騰

(単位：億円)

項目	'07年度	'08年度	差異	要因
売上高	7,042	7,660	618 (+8.8%)	原燃料価格の転嫁、 機能品・ファイン数量増
営業利益	559	530	△29 (-5.2%)	化成品・樹脂製品のスプレッド 縮小ほか
経常利益	467	440	△27 (-5.8%)	
当期純利益	240	250	10 (+4.0%)	
純有利子負債	2,756	2,670	△86	
自己資本	1,938	2,070	132	
配当(円/株)	5.0	5.0	0.0	

(単位：億円)

セグメント	売上高			営業利益		
	'07年度	'08年度	差異	'07年度	'08年度	差異
化成品・樹脂	2,332	2,540	208	186	156	△30
機能品・ファイン	935	1,045	110	141	151	10
建設資材	2,070	2,205	135	108	106	△2
機械・金属成形	1,203	1,247	44	66	61	△5
エネルギー・環境	464	587	123	46	49	3
その他	36	36	0	8	7	△1
計	7,042	7,660	618	559	530	△29

化成品・樹脂



- カプロラクタム：タイトな需給を背景にスプレッド確保と安定生産に努めるが、原料のアンモニア・硫黄価格、及びエネルギー価格が高騰し、コストアップ要因に
- ナイロン樹脂：需要堅調ながら相次ぐ増設で市場に供給過剰感が出ており、ブランド力を活かし原料価格転嫁と採算性向上を図る
- 工業薬品：アンモニア等の輸入品の高騰により国内需給はタイト感が増しており、原料価格転嫁とともに増産・拡販に努める
- 合成ゴム：アジアのタイヤ向けを中心に製品需給は良好に推移する中、高騰が続く原料価格を転嫁し、スプレッド確保に努める

(単位：億円)

項目	'06年度	'07年度	'08年度	'09年度 (中計目標)
売上高	2,104	2,332	2,540	2,150
営業利益	137	186	156	137

機能品・ファイン



- ポリイミド：PDP/TAB用の高シェアを維持しつつ、液晶/COF用のシェア拡大と、FPC用途の開発を進め、新設備でのフィルム増産効果を期待
- 電池材料：LIB用電解液・セパレーターとも、需要は拡大基調が続く
- ガス分離膜：窒素分離膜やバイオエタノール用アルコール脱水膜の旺盛な需要が継続、新設備の増産効果を見込む
- ファインケミカル：高騰する原料価格は確実に価格転嫁し、ヘリオフレッシュの拡販とPUDの市場立上げに努める
- 医薬：タリオン、カルブロックの出荷好調、プラスグレルは米国FDAで優先審査中

(単位：億円)

項目	'06年度	'07年度	'08年度	'09年度 (中計目標)
売上高	883	935	1,045	1,135
営業利益	115	141	151	163

建設資材

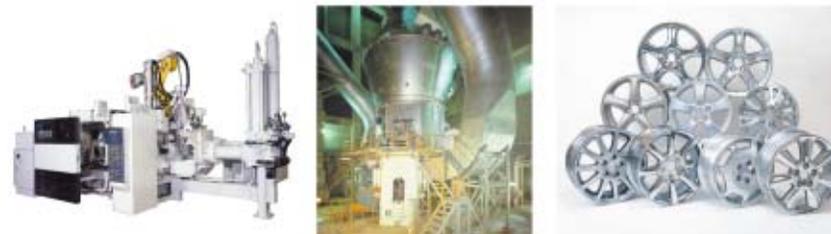


- セメント・生コン：内需は前年度比微増の5,600万tと想定、石炭等燃料価格の上昇を受け、1,000円/t以上の価格転嫁を実施
- 資源リサイクル：より手数料の高い処理困難品に取り組み、売上拡大とセメントの原燃料コスト削減を実現
- カルシア・マグネシア：鉄鋼産業向け需要は堅調、高騰する燃料の価格転嫁には一定のタイムラグ発生
- 機能性無機材料：気相法マグネシア、モスハイジ（樹脂用フィラー）などの伸長を見込む

(単位：億円)

項目	'06年度	'07年度	'08年度	'09年度 (中計目標)
売上高	2,078	2,070	2,205	2,135
営業利益	124	108	106	121

機械・金属成形



- 機械：ダイカストマシン等の成形機は、自動車関連設備需要がピークアウト
産機はアジア向け窯業機、豎型ミルを中心に高水準の受注が継続
さらに原価低減を図るが、鋼材価格上昇、為替の影響大
- アルミホイール：国内はフル生産・フル販売だが、北米は低水準の販売数量続く
カナダドル高に減損計上の財務的対策で対処し、収益改善策の着実な
実行により、事業の早期建て直しを図る
(北米：日系販売比率アップ、収率・塗装内製化率向上等)

(単位：億円)

項目	'06年度	'07年度	'08年度	'09年度 (中計目標)
売上高	1,142 (310)	1,203 (286)	1,247 (286)	1,190 (370)
営業利益	55 (△21)	66 (△16)	61 (△12)	75 (12)

() 内は、アルミホイール内数

エネルギー・環境



- 石炭：石炭需給逼迫と価格高騰を受け、販売炭・預り炭数量ともに高水準継続
コールセンター設備増強により貯炭能力拡大を図る一方で、
輸入先の多様化と低品位炭の活用技術開発を促進
- 電力：燃料コストの高止まりを、IPPの稼働率アップとバイオマス混焼で補う

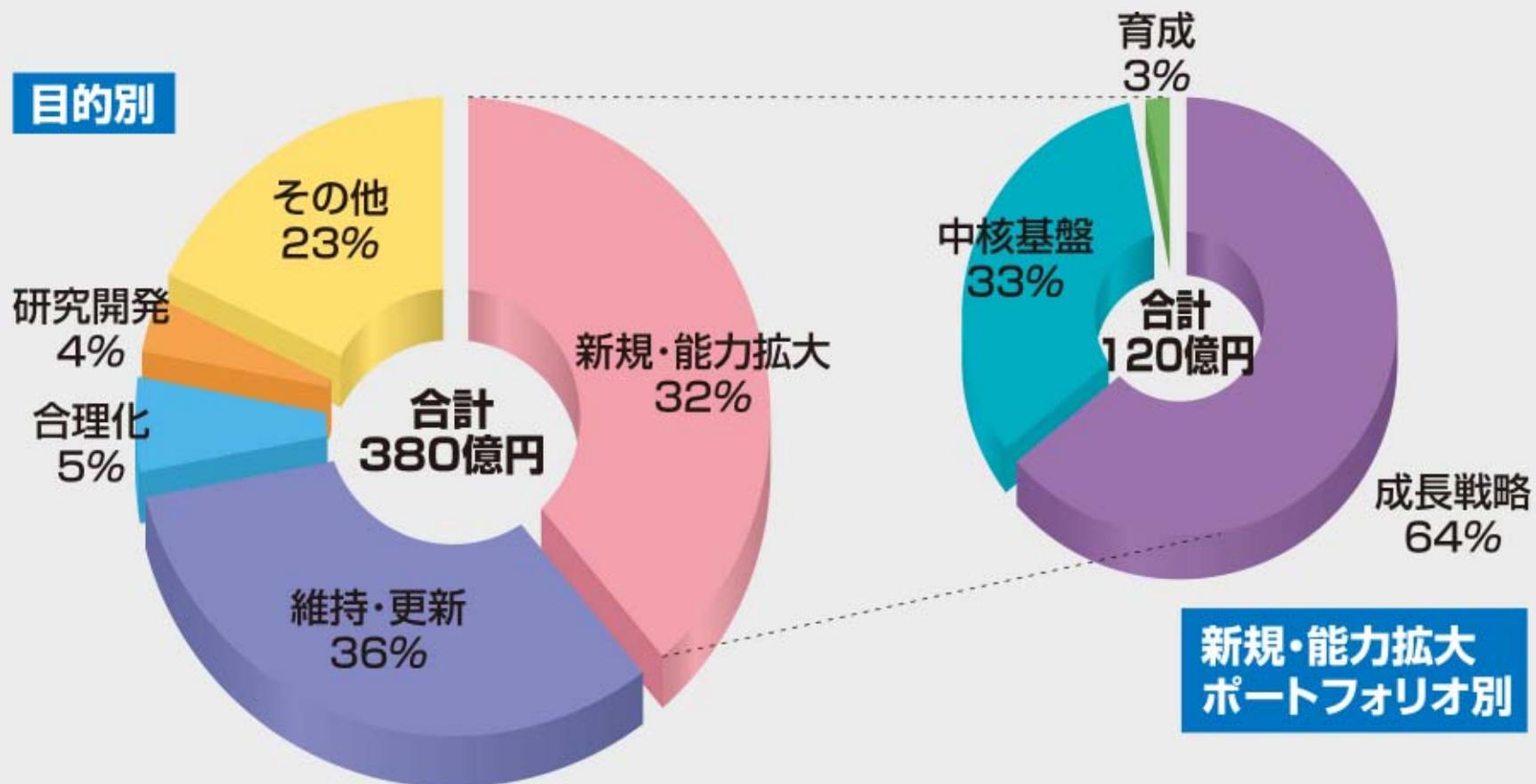
(単位：億円)

項目	'06年度	'07年度	'08年度	'09年度 (中計目標)
売上高	309	464	587	355
営業利益	27	46	49	28

(単位：億円)

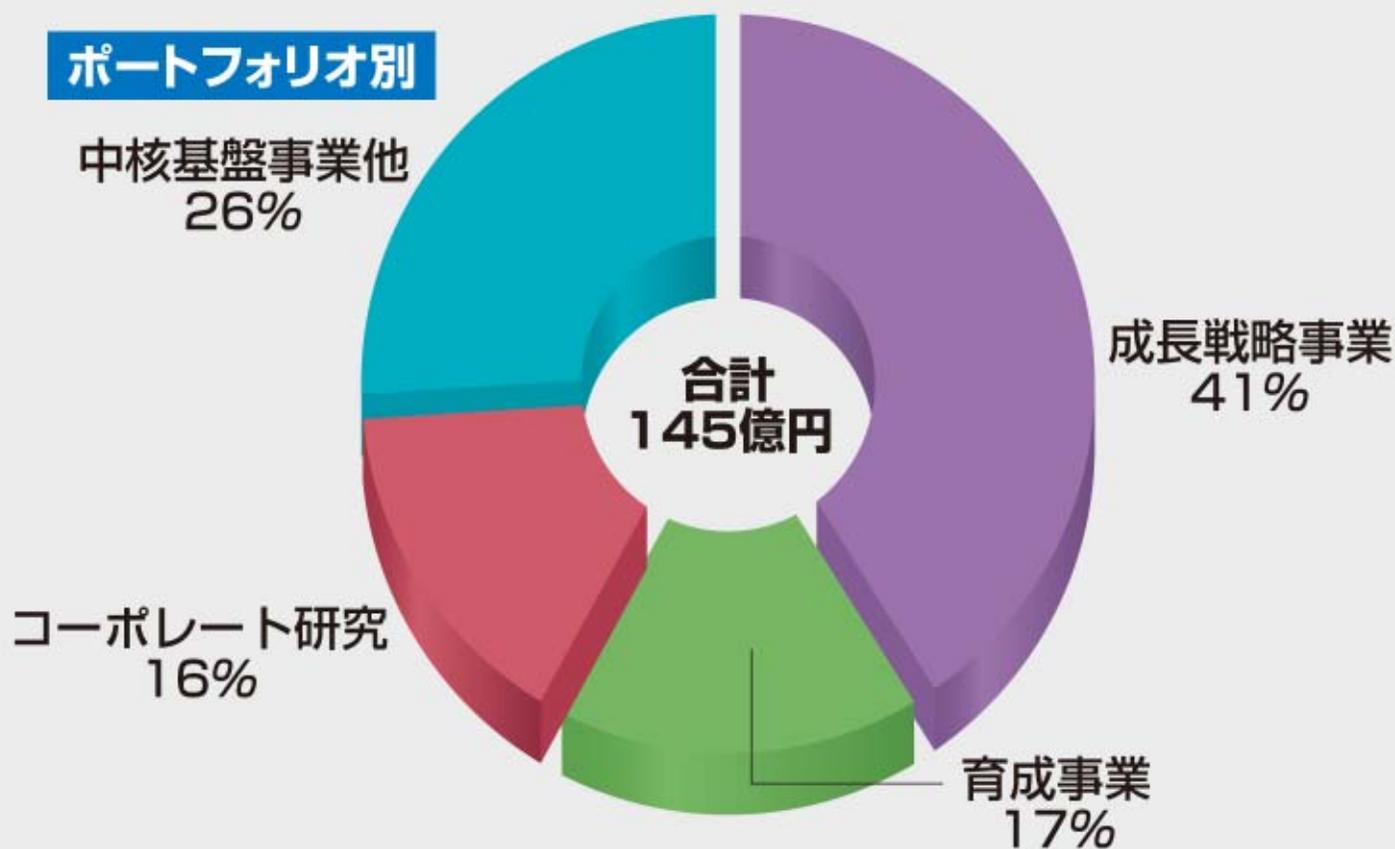
項目	'06年度	'07年度	'08年度	'09年度 (計画)
設備投資額	340	309	380	361

目的別



(単位：億円)

項目	'06年度	'07年度	'08年度	'09年度 (計画)
研究開発費	130	135	145	150





中期経営計画(2007～2009年度)

「ステージアップ2009」の進捗

① 持続的成長が可能な収益基盤の確立

事業ポートフォリオに基づき、安定した利益・キャッシュフローを生み出す盤石な中核基盤事業をベースに、収益性の高い成長戦略事業をグループのドライビングフォースとして、UBEグループ全体でバランスのとれた持続的な発展を目指す。



中計期間中にすべての経営指標で
過去最高値を更新

「未踏のステージへの挑戦」



② 財務構造改革の継続

■ キャッシュフロー重視経営を徹底

収益力の強化に加え、地道なコストダウンは継続推進
資金創出のため、在庫削減、物流コスト削減への一層の取り組みを
プラスアルファの施策として

■ もう一段の財政体質の改善を

設備投資…減価償却費相当額に（グループ全体、3年間で）

⇔ 将来の成長・拡大のために必要な投資は厳選の上確実に実行

③ CSR活動の深化

経済的側面：企業価値・株主価値の持続的向上
（時価総額の増大、株主還元の増加等）

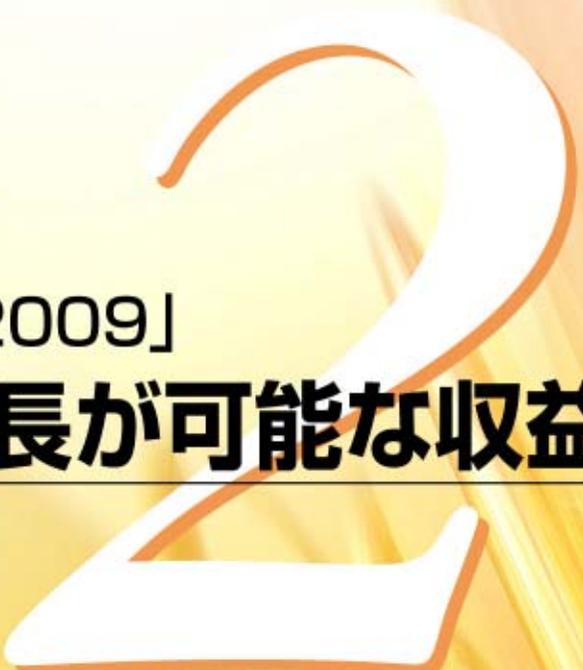
環境的側面：環境安全・保安、製品安全の体制強化

社会的側面：コンプライアンスの徹底、コーポレートガバナンス、
内部統制の充実、雇用・地域社会への貢献

項目	単位	'06年度 実績	'07年度 実績	'08年度 予想	'09年度 中計目標	'11年度 ターゲット
ネットD/Eレシオ	倍	1.7	1.4	1.3	1.3未満	1.0未満
自己資本比率	%	24.1	26.9	27.6	30以上	—
売上高営業利益率	%	7.1	7.9	6.9	7.5以上	8.5以上
総資産事業利益率	%	7.0	8.2	7.4	7.5以上	8.5以上
自己資本当期純利益率	%	13.7	13.1	12.5	12以上	—
売上高	億円	6,556	7,042	7,660	7,000以上	—
営業利益 * [減価償却制度変更前]	億円	468	559 [591]	530 [581]	530以上 [575以上]	650以上 [705以上]
事業利益	億円	498	586	545	560以上	—
純有利子負債	億円	2,987	2,756	2,670	2,790未満	—
自己資本	億円	1,725	1,938	2,070	2,180以上	—
コストダウン (対'06年度)	億円	—	107	177	190以上	—

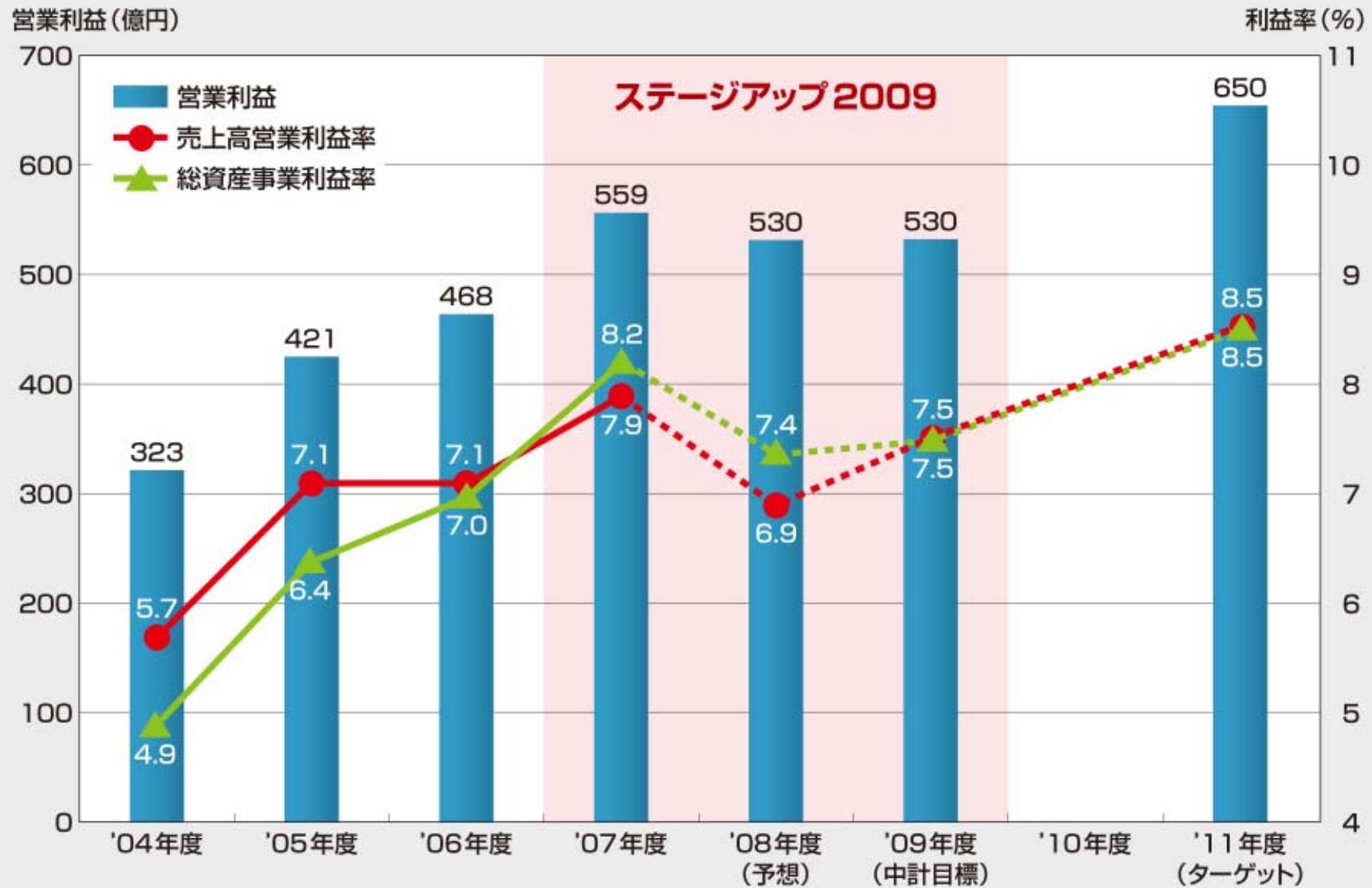
*減価償却制度変更による影響額 (億円)

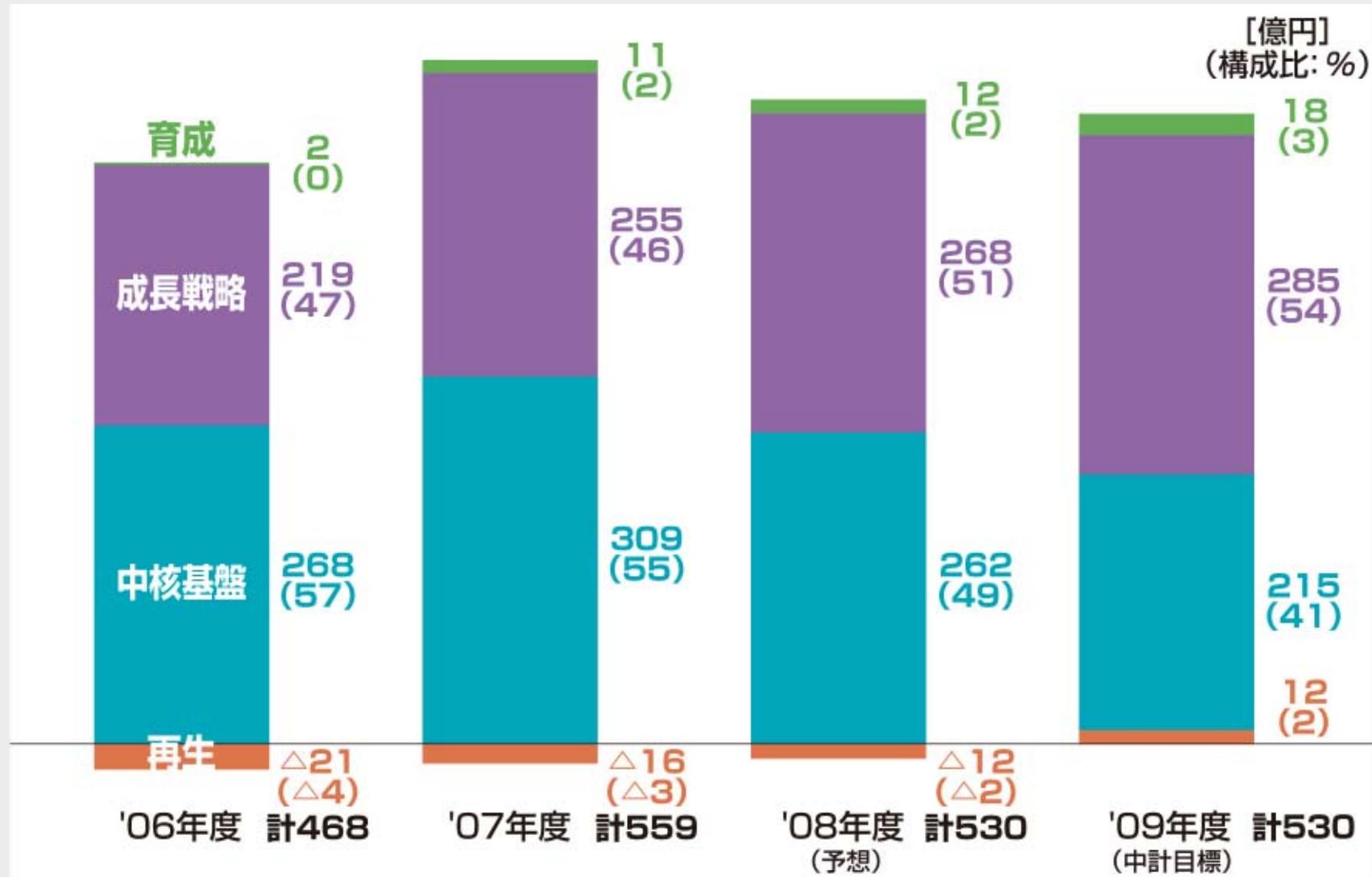
- ・ 残存簿価の全額償却：'07年度32、'08年度40、'09年度45、'11年度55
- ・ 法定耐用年数の見直し：'08年度11



「ステージアップ2009」

① 持続的成長が可能な収益基盤の確立





案 件		場 所	完工時期
【成長戦略事業】			
機能品・ ファイン	9期ポリイミドフィルム製造設備及び3期BPDA(原料モノマー)設備増強	宇部	'07/10
	10期、11期ポリイミドフィルム製造設備及び4期BPDA製造設備	堺	'09/7・9
	ジオール工場新設	タイ	'09年度中
	ガス分離膜 2期紡糸設備増強、3期紡糸設備新設	宇部・堺	'07/9・'08/2
	機能膜6期製造設備	宇部	'09/上
半導体関連製品(高純度硝酸、三塩化ホウ素)製造設備	宇部	高純度硝酸'08/1 三塩化ホウ素'09/5	
セラミックス(窒化珪素)製造設備	宇部	'09/4	
建設資材	伊佐・苅田セメント工場 燃料系廃棄物処理設備	伊佐(山口) 苅田(福岡)	'09/2 '10/3
【中核基盤事業】			
化成品・ 樹脂	カプロラクタム デボトル増産	堺・タイ	'10/3
	ナイロン6樹脂重合設備	タイ	'09/9
	合成ゴム 特殊品(VCR、MBR)製造設備	VCR:タイ MBR:千葉	'07/7 '09/7
	南通合成ゴム(BR)合併会社設立(投融資)	中国	'08/9
【再生事業】			
機械・ 金属成形	大口径ホイール増産設備	宇部	'09/上 (1期:'07/5)

UBEグループの特徴

古い歴史を持つものから比較的新しいものまで、多岐にわたる事業群を擁するが、それぞれの事業規模はさほど大きくはない。

幅広い市場・地域展開

■ 幅広く、バランスよい市場展開

一般産業／社会資本、生活関連、自動車、
エネルギー・環境、医薬、情報・電子・通信、航空・宇宙

■ 幅広い地域展開

新興国市場が安定した成長を後押し
グループ全体として、特定地域の影響小

「強み」のある事業群

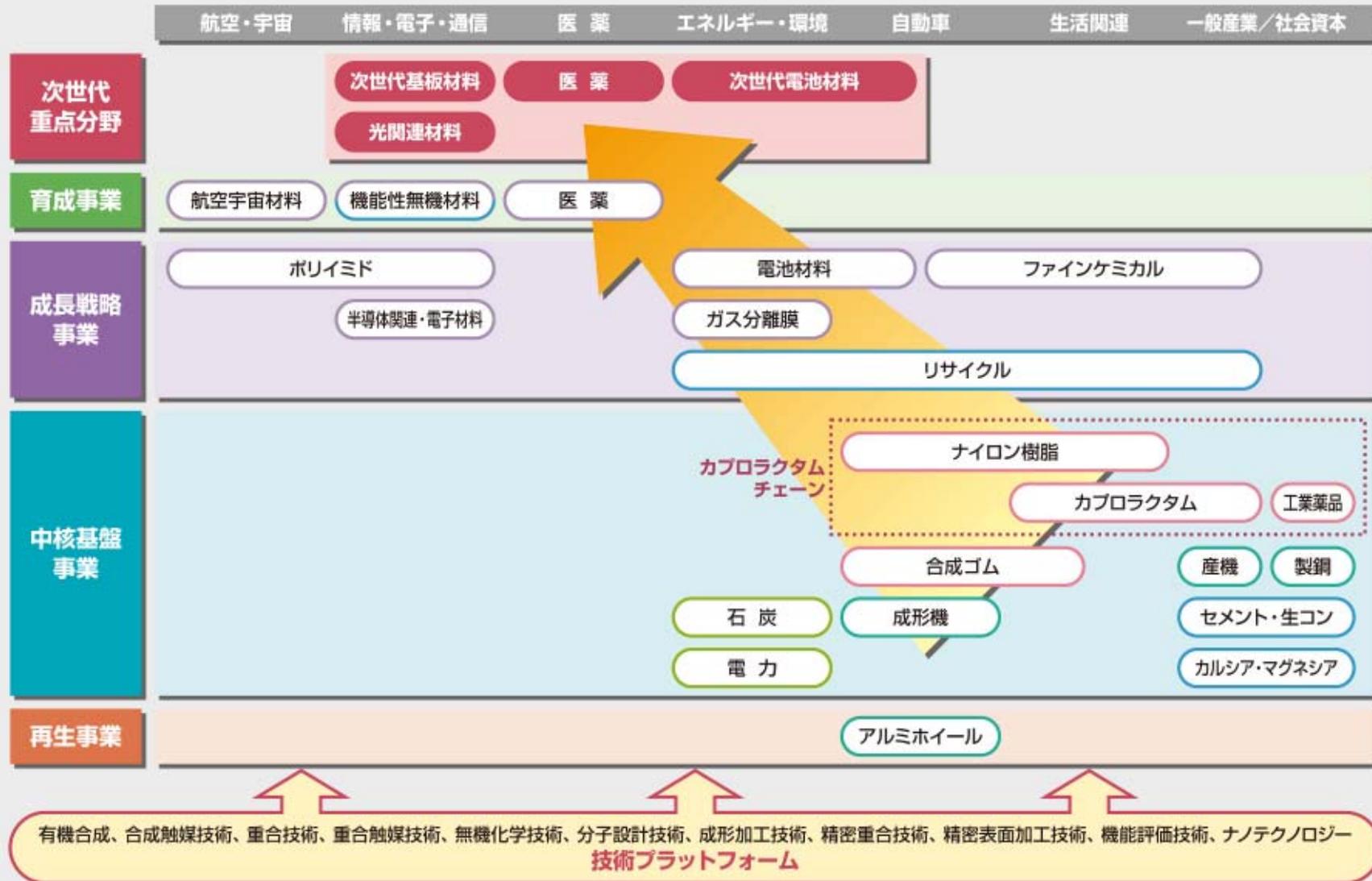
■ ニッチ、高シェアでマーケットを主導

■ 安定成長、安定収益事業の存在

事業を取り巻く
様々な環境要因

- 原燃料価格の高騰
- IT市場の在庫循環
- 為替の急激な変動
- 米国市場の景気後退
etc.

一つの要因に左右されない
安定した経営を目指す



【海外売上高の推移】

％は連結売上高に占める割合



【セグメント別海外売上高】

(単位：億円)

	化成品・樹脂	機能品・ファイン	建設資材	機械・金属成形	エネルギー・環境	その他	合計
輸出売上高	344	163	31	330	2		870
海外子会社売上高	1,035	151	14	159			1,359
合計	1,379	314	45	489	2		2,229
セグメント別売上高に占める割合	59.1%	33.6%	2.2%	40.6%	0.3%	0.0%	31.6%

グローバル・ニッチ事業

(グローバルに展開・存在感がある事業)

- カプロラクタム(世界No.3、アジアNo.1)
- ナイロン6(世界No.2グループ、アジアNo.1)
- ナイロン12(アジアNo.1)
- 合成ゴム(BR(外版):世界No.3、国内No.1)
- セラミックス(窒化珪素:世界No.1)
- ガス分離膜(窒素分離膜:世界No.3、アルコール脱水膜:有機膜では世界Only 1)
- 二価フェノール系ファインケミカル
(カテコール:国内Only 1、高純度カテコール、ヘリオフレッシュ:世界Only 1)
- ラクタム系ファインケミカル(1.6HDL、1.5PDL:アジアOnly 1、PCD(外版):世界No.1)
- 成形機
(ダイカストマシン:大型(1,000t以上)分野で世界No.1)
(射出成形機:大型(650t以上)分野で世界No.4)
(押出プレス:世界No.1)
- 産機(縦型ミル:世界No.3)

有望育成事業

(将来に向けて有望で、今後の成長が見込める事業)

- 医薬品事業(自社医薬既存2剤の他、抗血小板剤等パイプライン充実)
- 航空宇宙材料(超耐熱素材)
- 環境コーティング材料(自動車内外装向け環境対応塗料)
- 機能性無機材料(電子・光学材料で強み)

高シェア事業

(それぞれのターゲット市場でシェアの高い事業)

- 工業薬品(アンモニア:国内No.1)
- ポリイミド(フィルム:世界No.3、TAB市場独占、BPDA:世界No.1)
- 電池材料(電解液:世界No.1、セパレーター:世界No.4)
- 半導体関連・電子材料(三塩化ホウ素:世界No.1)
- C1化学系ファインケミカル
(DMC:世界No.3、国内Only 1、DMO:世界Only 1、MAME:世界No.1)
- ラクタム系ファインケミカル(MEKO、DDA:国内Only 1)
- セメント(固化材:国内No.1)
- 建材(セルフレベルング材:国内No.1)
- カルシア・マグネシア
(生石灰:国内No.1、マグネシアクリンカー、水酸化マグネシウム:国内Only 1)
- 産機(除塵装置:国内電力向けNo.1)
- 石炭(一般炭)(コールセンター取扱数量、貯炭能力:国内No.1)

ディフェンシブ事業

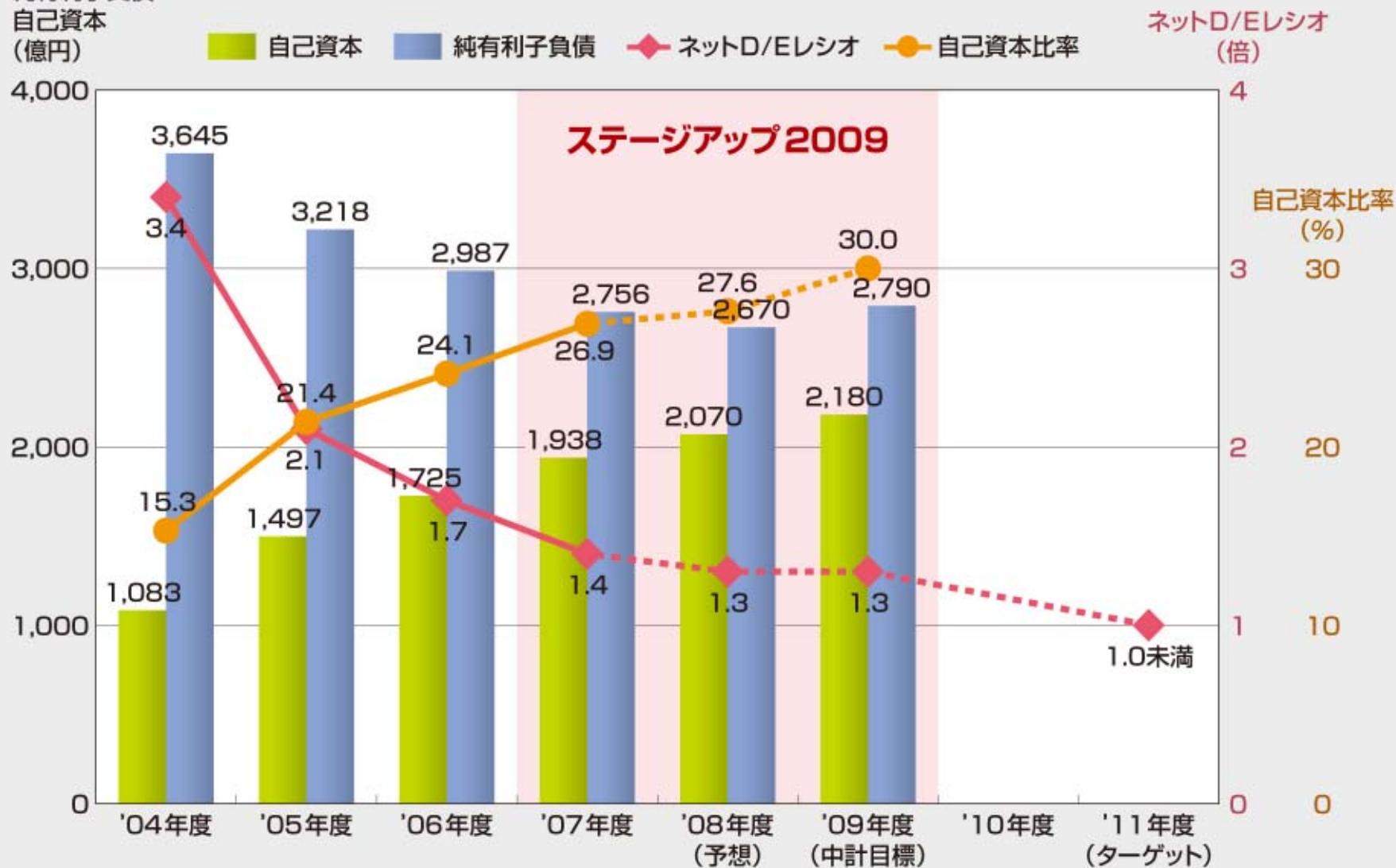
(原燃料価格や景気の変動に強い事業)

- 医薬品事業(景気動向に左右されない典型的な事業)
- ファインケミカル(原燃料価格高騰影響は限定的。ニッチ市場のため需要も安定)
- 機能性材料、機能性無機材料
(短期的にはIT在庫サイクルの影響を大きく受けるが、長期的には着実に成長)
- 資源リサイクル(環境規制強化の中で安定的に成長)



「ステージアップ2009」
② 財務構造改革

純有利子負債
自己資本
(億円)



キャッシュ・フローの創出

- 設備投資枠の堅持
3年間計 1,050 億円…減価償却費相当額 (制度変更前ベース)
- 継続的なコストダウンによる利益の下支え
- グループ金融強化による資金効率向上

フリー・キャッシュ・フロー
'07年度 304 億円
(前年度比 +32 億円)

- プラスαのキャッシュ創出
'07年度からの新たな取り組みとして、'09年度目標を設定
 - ① 在庫削減：在庫回転期間を'06年度比0.3ヶ月短縮
 - ② 物流効率化：'06年度比25億円削減

「ステージアップ2009」
未折込

長期安定資金の確保

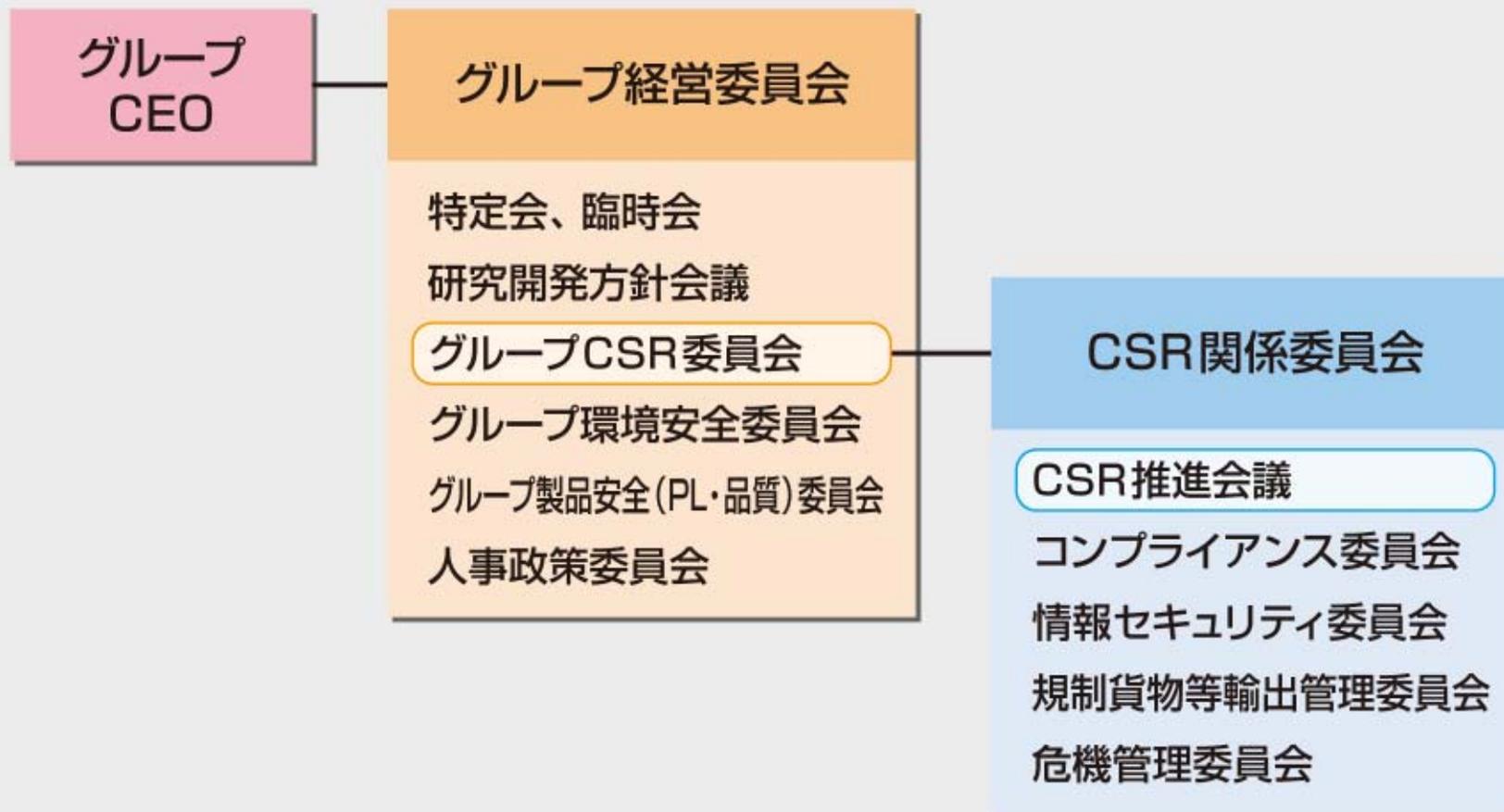
- '07年5月 普通社債 150 億円発行



「ステージアップ2009」

③ CSR活動の深化

◆CSR委員会の新設(2008年4月)



◆CSRマトリクスによる活動評価

企業価値を向上させ、時価総額の増大を図るとともに
下記方針により株主への還元を

配当方針

業績に対応した配当が基本

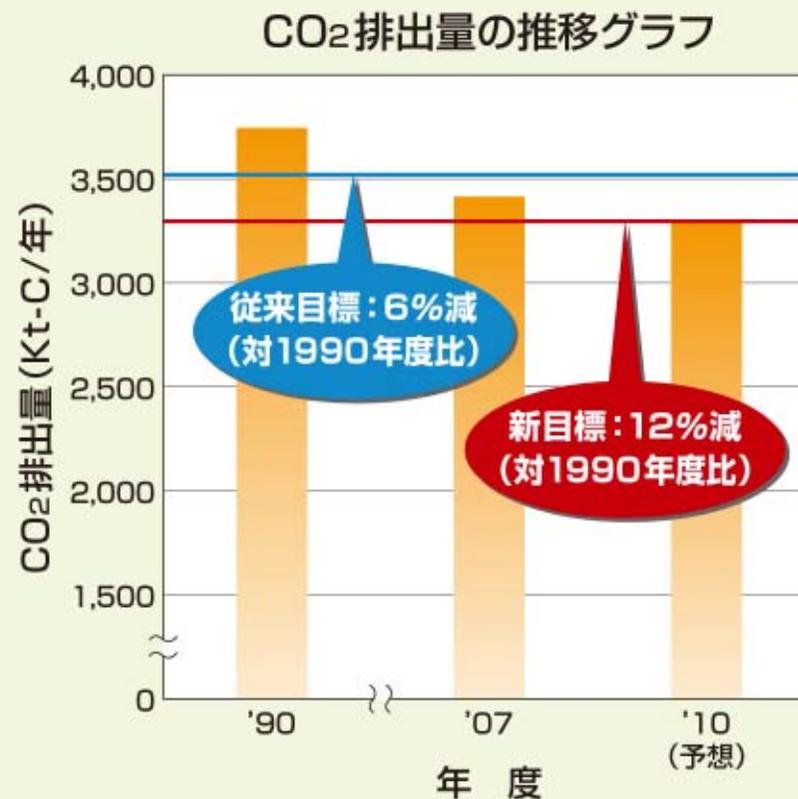
一方、株主の中長期的な利益確保を図るうえで、
将来の事業展開のための内部留保の充実も重要

⇒ これらを総合的に勘案して株主配当を決定

**連結配当性向 20%～25%を目安に
業績の向上に伴い着実な増配を目指す。**

**京都議定書における2010年の温暖化ガス排出量
削減目標6% (1990年度比) に対し、UBEグループ全体で目標を上乗せ。**

- ① 省エネ・燃料転換・廃棄物利用等により、2010年度のCO₂排出量削減目標を12% (1990年度比) とする。
(従来は京都議定書にそって6%削減を目標)
- ② CO₂以外の温室効果ガス排出量をCO₂換算で、2010年度までに年10万トン削減する。
- ③ ①、②とも2009年度中に前倒し達成を目指す。



UBEが推進するGSC(グリーン・サステイナブル ケミストリー)

開発、製造、物流、使用、廃棄、再利用など、製品の全ライフサイクルにわたって、化学技術の革新により、「人と環境の健康・安全」を確保する



ヘリオフレッシュ®

- C1化学技術をベースにした環境低負荷コーティング材料の開発
- 香木乱伐による森林破壊を回避するマリン系合成香料(ヘリオフレッシュ®)
- 光触媒繊維(アクアソリューション®)の水浄化システムへの展開 等

既存技術を応用した「環境」貢献製品・事業の例

- 発電所でのバイオマス混焼
- バイオエタノール精製用アルコール脱水膜
- 家電・自動車の廃プラリサイクル(調色リサイクル樹脂)
- 風力発電軸受用セラミックス(窒化珪素) 等



セメント工場……究極の資源リサイクル工場

- セメント3工場で年間345万トンの廃棄物・副産物を受け入れ、有効利用
- 高塩素バイパス技術により塩素を含む廃棄物も再利用



参考資料

**成長戦略事業**

【定義】市場成長性が高く、技術・製品開発力、マーケティング力等における競争優位性の発揮により事業規模拡大と高収益創出が可能な事業。

【使命】集中的に資源投入し、迅速な事業規模拡大と収益増大を図る。

育成事業

【定義】将来、成長戦略事業となりうる成長及び収益性ポテンシャルを持つが、3～5年の育成期間を必要とする事業。

【使命】3～5年以内に目標の規模と収益性を達成し、成長戦略事業となる。

中核基盤事業

【定義】市場は安定・成熟期を迎えており、コスト・品質等における競争優位性や市場支配力の発揮及び製品の差別化等を図ることにより安定的な収益確保が可能な事業。

【使命】事業の維持あるいは収益拡大のために必要な資源投入を行いながら、安定的収益・キャッシュフローの確保を図る。

再生事業

【定義】業績不振が続くなど抜本的対策を必要とする事業。

【使命】抜本的収益改善策の立案・実施により事業再生を図る。但し、再生が困難と判断される場合には、他社と共同事業化、事業売却、撤退等を行う。



育成事業

- 航空宇宙材料
- 機能性無機材料
- 医薬

成長戦略事業

- ポリイミド
- 半導体関連・電子材料
- リサイクル
- 電池材料
- ガス分離膜
- ファインケミカル

中核基盤事業

カプロラクタムチェーン

- ナイロン樹脂
- カプロラクタム
- 工業薬品

- セメント・生コン
- カルシア・マグネシア

- 合成ゴム (ポリエチレン)
(ABS)

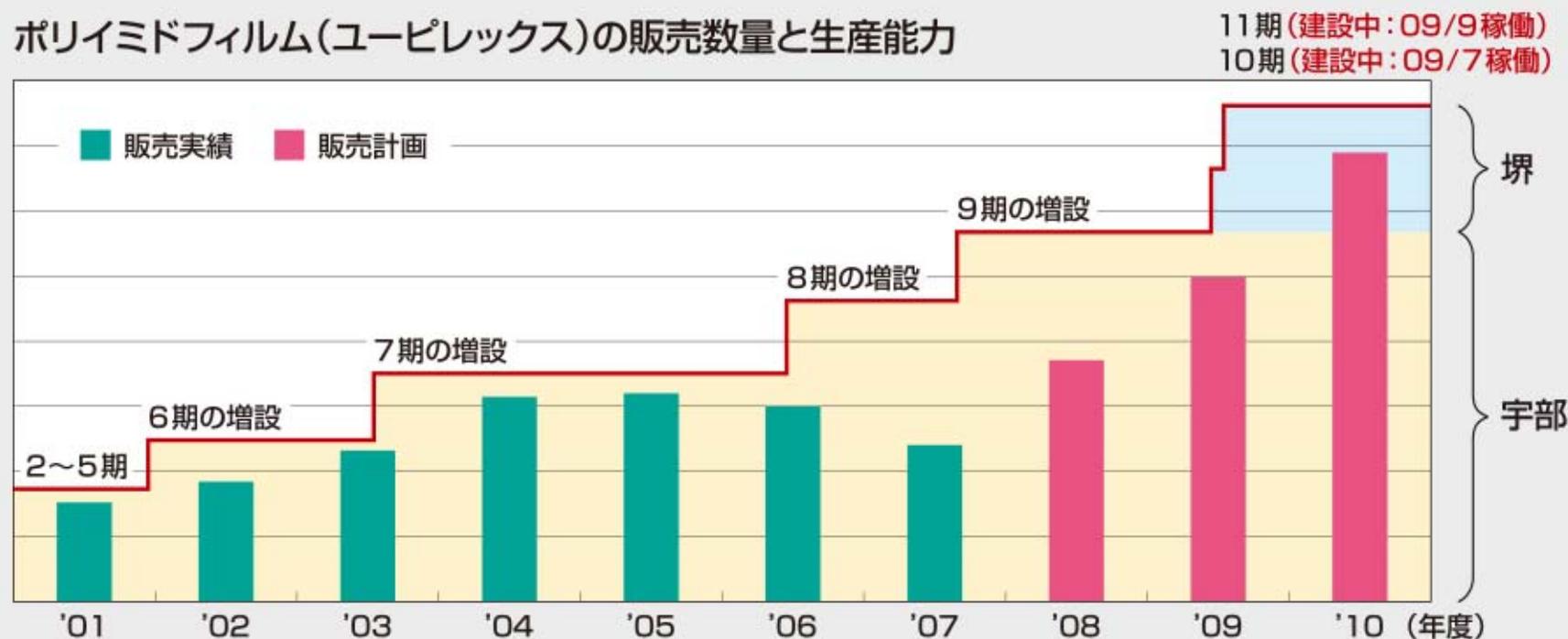
- 成形機
- 産機
- 製鋼
- 石炭
- 電力

再生事業

- アルミホイール


〈ポリイミド事業の戦略〉

- フィルム： フラットパネル向け市場の拡大、FPC市場への積極展開による規模の拡大と、新規製品開発及び品質改良、コストダウンによって利益の増大を推進
- 関連製品： ワニス・ユピコートにつき用途開発を行い事業拡大を推進
- 二層CCL： 製・販・技の機能を宇部日東化成(株)に一本化('08年4月)し、収益改善・効率化推進を進めながら事業基盤を強化
市場展開としては、薄物FPC、厚物パッケージ分野など付加価値の高い新規市場分野に領域を拡大

ポリイミドフィルム(ユープレックス)の販売数量と生産能力




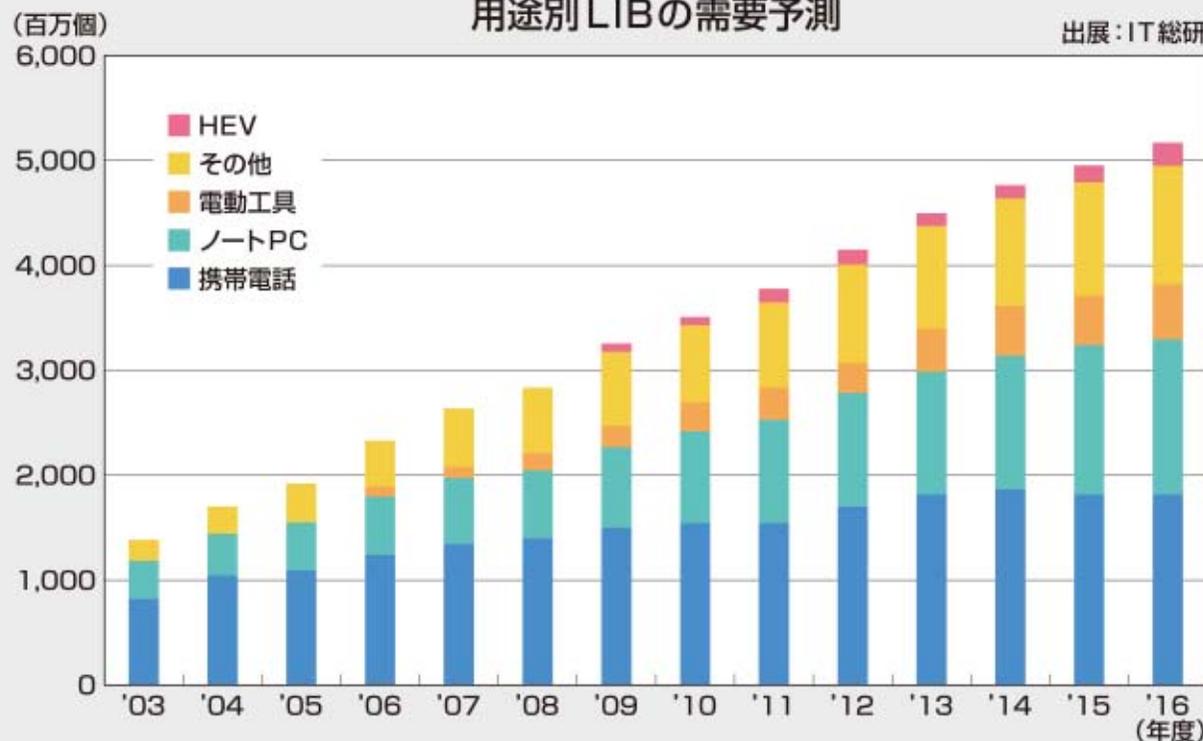
電解液



セパレーター

用途別LIBの需要予測

出展：IT総研



〈電解液事業の戦略〉

- 高性能電池向けの高機能電解液に特化
- 機能付与添加剤の開発・内製化の推進
- 需要増に対応した増産、並びにミッドレンジ進出を視野に入れたコストダウン

〈セパレーター事業の戦略〉

- 中国市場における販売数量の維持拡大
- HEV搭載LIB向けセパレーター拡販
- コストダウン、効率化の推進と6期設備建設



〈半導体関連・電子材料事業の戦略〉

シリコン半導体LSIプロセス材料

- ウェハー洗浄液：高純度薬品（硝酸、硫酸、安水）
- アルミ配線エッチングガス：三塩化ホウ素
- 次世代配線、電極材料：各種CVD金属錯体の開発・推進

拡販



シリコン半導体LSI

化合物半導体プロセス材料

- 有機金属化合物 (MO)
TMG、TMI、TMA 等

拡販



レーザーダイオード



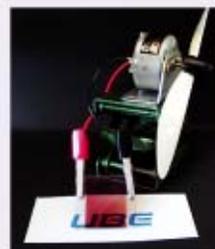
発光ダイオード

光関連新規材料の開発

- 有機EL、
色素増感太陽電池材料等



EL用青色発光材料
(開発中)



色素増感型
太陽電池セル



DVD/CD



パソコン



液晶テレビ



携帯電話



信号機



〈ガス分離膜事業の戦略〉

- 防爆用途が急増の窒素富化膜
- ガソリン代替燃料バイオエタノール用脱水膜
⇒ 2品目の拡販により、'10年度売上を'07年度比2倍に

中期販売予想



窒素膜モジュール



移動式窒素発生器



〈ファインケミカル事業の戦略〉

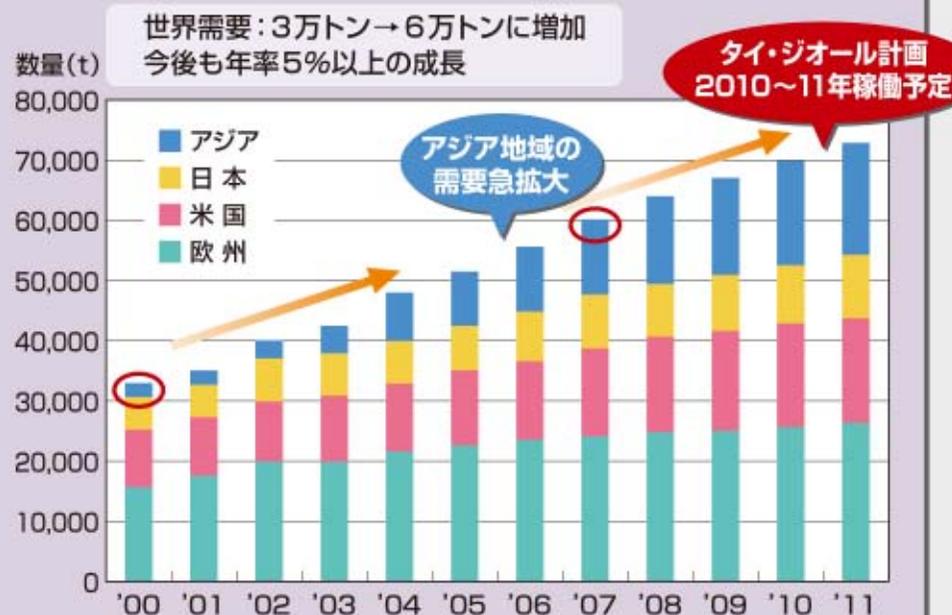
既存事業の強化

- ジオール工場新設(タイ)計画を推進
- DMC誘導体展開などC1ケミカル事業強化
- ヘリオフレッシュ®に続き、ヘリオトロピンの合成法による事業化検討
- PCD増産およびグレード展開の加速

環境コーティング材料ビジネスの立上げ

- 脱VOC対応など、環境調和型の商品展開
- 技術導入によるPUD(水系PUディスペーション)事業の早期立上げ
- PCD系PUDの独自グレード開発
- ターゲット市場は自動車内外装など

ヘキサンジオール(HDL)の世界市場



ポリカーボネートジオール (PCD)を使用した
ポリウレタンの用途(人工皮革)



■ セメントキルンでの廃棄物処理

⇒ 再資源化要請も強く、今後も伸長が見込める重要な収益源

〈リサイクル事業の戦略〉

- 処理設備の充実
- 技術開発のスピードアップ
- 都市圏からの収集量拡大
- 新規リサイクル事業の探索・創出



セメントキルン廃棄物処理
150億円以上へ

山口エコテック、バイオマス発電に続く
第三の環境事業を立上げ



■ 容器包装プラスチックのケミカルリサイクル事業 (EUP)

■ 樹脂リサイクル事業 (調色リサイクル樹脂)



取組み強化

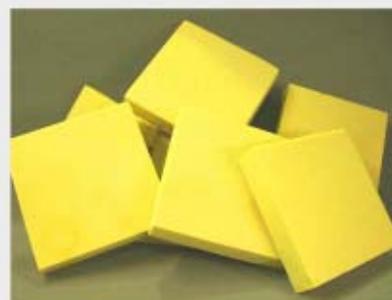


耐熱コンポジット材料PETI

2008年～2010年
開発試験

米国航空機メーカーにおいて、
契約に基づく複合材評価試験実施中

- エンジンナセル
- エンジンベイン
- 機体一次構造



発泡ポリイミド

2009年
第I期製造設備

欧州航空機メーカーにおいて、
契約に基づく材料評価試験実施中

- エアダクト断熱・遮音
- 機体内装ブランケット
(断熱マット材)



チラノヘックス®

2007年～2009年
高次実証試験
(開発段階移行)

- 燃焼器高温部材
- 高温タービン
- ノズル材





◆ 自社医薬品の状況

	商品名 (開発コード)	適応症	販売	状況
営業品	タリオン	抗アレルギー剤 ● アレルギー性鼻炎 ● 蕁麻疹 ● 皮膚疾患に伴うそう痒	田辺三菱製薬(株) 製剤売上高(億円) 2007年度実績 83 2008年度見込 108 2010年度目標 140	[共同開発] 2000年 上市(日本) 2003年 皮膚疾患適応承認 2004年 上市(韓国):売上第一位 2007年 口腔内崩壊錠承認 ※点眼薬ライセンスを受けた米 ISTA 社(米国)フェーズⅢ
	カルブロック	血圧降下剤 ● 高血圧症	第一三共(株) 製剤売上高(億円) 2007年度実績 102 2008年度見込 140	[共同開発] 2003年上市(国内)
開発品	プラスグレル (CS-747)	抗血小板剤 ● 心筋梗塞、脳梗塞など	第一三共(株) Eli Lilly 社(米国)	[共同開発:第一三共(株)] (欧米)申請中 (国内)フェーズⅡ
	(DE-104)	緑内障治療薬 ● 緑内障、高眼圧症	参天製薬(株)	[共同開発:参天製薬(株)] (米国)フェーズⅡ (国内)フェーズⅡ
	(UR5269)	抗リウマチ薬	未定	[自社開発] 前臨床
	(UR5908)	COPD 治療薬 (COPD:慢性閉塞性肺疾患)	未定	[自社開発] 前臨床

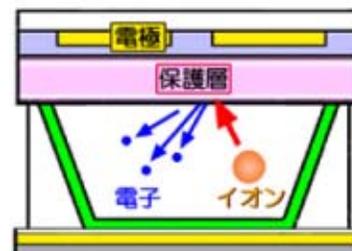
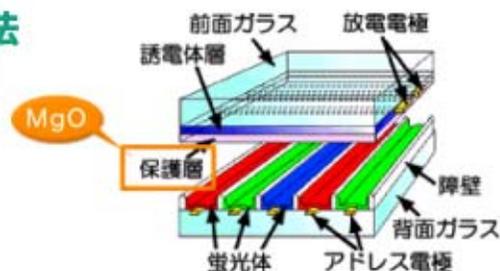


〈宇部マテリアルズのファインマテリアル事業〉

事業売上規模 '06年度 35億円 → '09年度倍増へ

- PDP保護膜用気相法マグネシア
 - 積層セラコン用高純度炭酸カルシウム
 - ステッパレンズ用高純度硝酸カルシウム
 - 食品用カルシウム強化剤
 - モスハイジ(塩基性硫酸マグネシウム)
- ① PDP分野を中心とした高機能・高品質製品の
新規開発と早期上市
 - ② 気相法マグネシア(MgO)の拡販推進

PDP用気相法 MgOの使用



MgOの役割

- ① プラズマイオンから
電極を保護
- ② 二次電子放出

〈宇部日東化成のハイプレシカ事業〉

シールスペーサ市場ではトップシェア

⇒ 液晶TV、シール剤フィラー市場で更に事業拡大

〈ナイロン樹脂事業の戦略〉：事業の筋肉質化

事業環境：ナイロン6：アジア向け需要増加（年10%伸長）
 ナイロン12：世界で四社寡占のニッチ市場（年5～6%伸長）
 打つ手：タイでの増産計画、宇部工場の生産体制再構築、
 コポリマー等差別化品増販



ナイロン6製インテークマニホールド

ナイロン6、ナイロン12
 共にアジアNo.1

アジアNo.1

〈カプロラクタム事業の戦略〉：収益の安定化

事業環境：アジアが最大かつ成長市場（年2～3%伸長）
 打つ手：スプレッド管理、安価原料確保、
 生産量の最大化、コスト削減

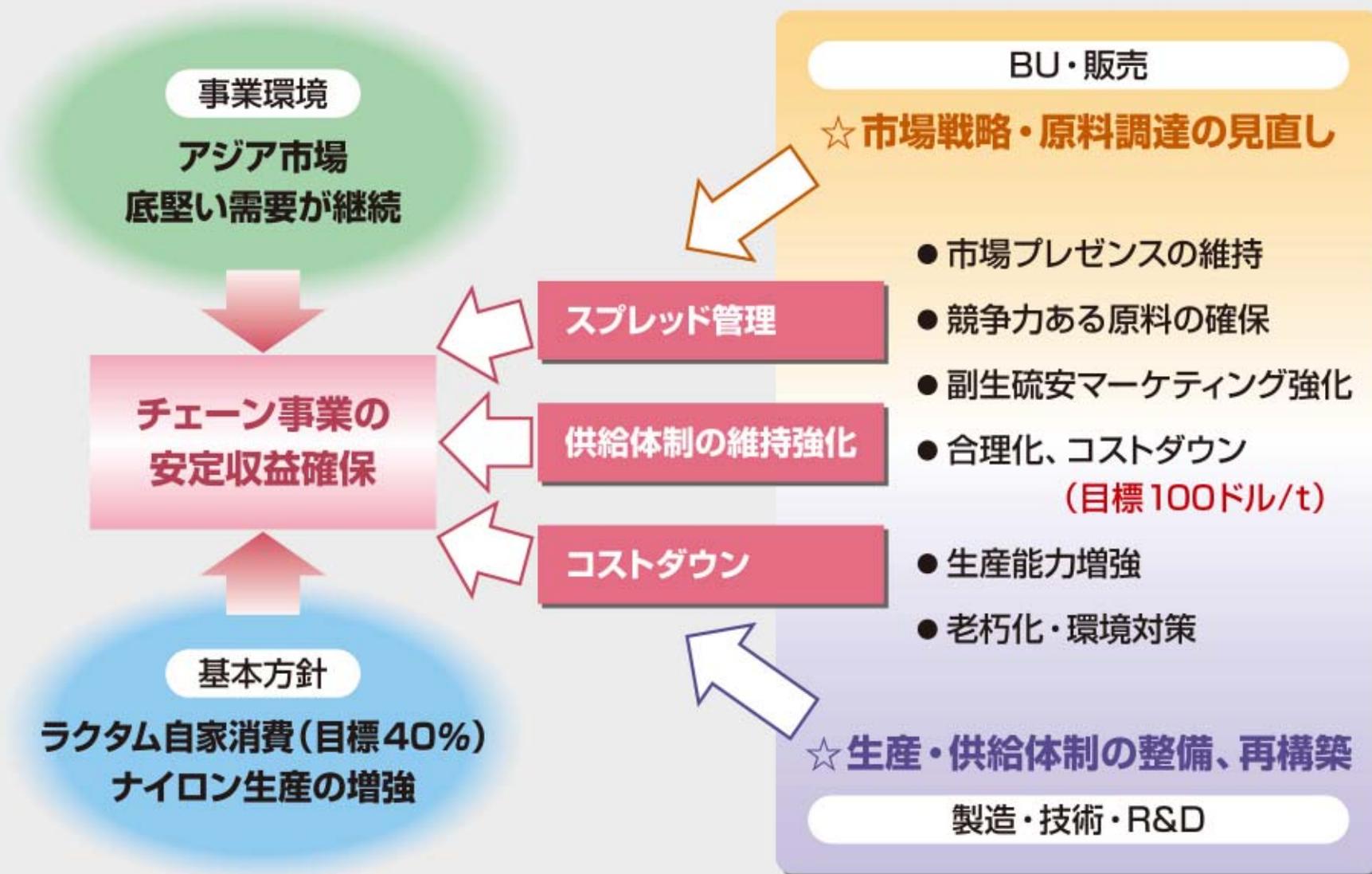
アンモニア生産
 日本一

〈工業薬品事業の戦略〉：事業の再構築

事業環境：液安、硝酸、硫酸、ガス製品は、需要堅調
 打つ手：宇部アンモニアの生産安定化



食品包装用ナイロンフィルム





〈合成ゴム事業の戦略〉

- 製品の差別化および需要に応じた供給体制確立
- 日本・タイ・中国に次ぐ第4工場の検討

BR(外販)
世界No.3

事業環境

- タイヤメーカーの増設を背景とした需要増加(中国は年10%伸長)

打つ手

- タイでのVCR生産開始
- ナノVCR、メタロセンBRの上市
- 中国南通市にてBR生産開始('08年~50kt)





〈セメント事業の戦略〉

国内セメント需要想定(万トン)



〈生コン事業の戦略〉

都市部

- ネットワーク化の推進・強化
- 高強度・高流動生コン等の技術力
⇒ 業界をリード、安定収益を確保

地方部

- 集約化の推進

官需減少により需要漸減

エネルギーコスト高止まり

廃棄物処理拡大により、
安定的収益確保

製造面

- 廃棄物処理設備の整備
(3カ年で約40億円投入)
- 計画的な事業維持投資の実行

営業面

- 価格是正への継続的取り組み

〈カルシア・マグネシア事業の戦略〉

宇部マテリアルズ…生石灰業界のトップ企業

基盤強化

- カルシア事業の全国展開
- 美祿工場の生産体制強化

新規市場・新規製品の開発

- 次世代高反応性消石灰の上市
- 非耐火物新規マグネシア分野への展開

〈機械事業の戦略〉

- 宇部興産機械を中核としたUM4 一体経営
⇒ グローバル化対応力強化とサービス事業充実
- 成形機、産機、製鋼の3本柱による安定的利益確保

※UM4：宇部興産機械、
宇部テクノエンジ(サービス事業会社)、
UBE Machinery Inc. (米国)、
宇部興産機械(上海)の4社集団



ダイカストマシン(成形機)



製鋼品



縦型ミル(産機)



沖の山コールセンター



IPP発電所



バイオマス燃料化設備

	〔外部環境〕	〔事業戦略〕	〔目標〕
石炭	<ul style="list-style-type: none"> ● 需給逼迫と価格高騰 中国、インド等アジアの需要急増 豪州等供給側の寡占強まる '08年度石炭価格は'07年度の2.3倍に 	<ul style="list-style-type: none"> ● コールセンターの能力拡大 ● 低品位炭の利用拡大 ● 供給ソース、炭種の最適化 ● 技術サービス強化 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 競争力あるエネルギー (石炭・電力)をUBEグループへ 安定供給 (2) 外販・コールセンター寄託事業 による収益、キャッシュフロー 創出の最大化
電力	<ul style="list-style-type: none"> ● 燃料コストの高騰 ● 環境対応要請(CO₂、新エネ) 	<ul style="list-style-type: none"> ● バイオマス燃料活用拡大 	



〈アルミホイール事業の戦略〉

国内

- 大口径・高収益ホイール比率の拡大
- 原価低減プロジェクト推進
- 低コストの新鑄造機の開発

収益改善

北米

- 日系ユーザー比率の拡大
- 塗装内製化・収率改善等、徹底したコスト削減

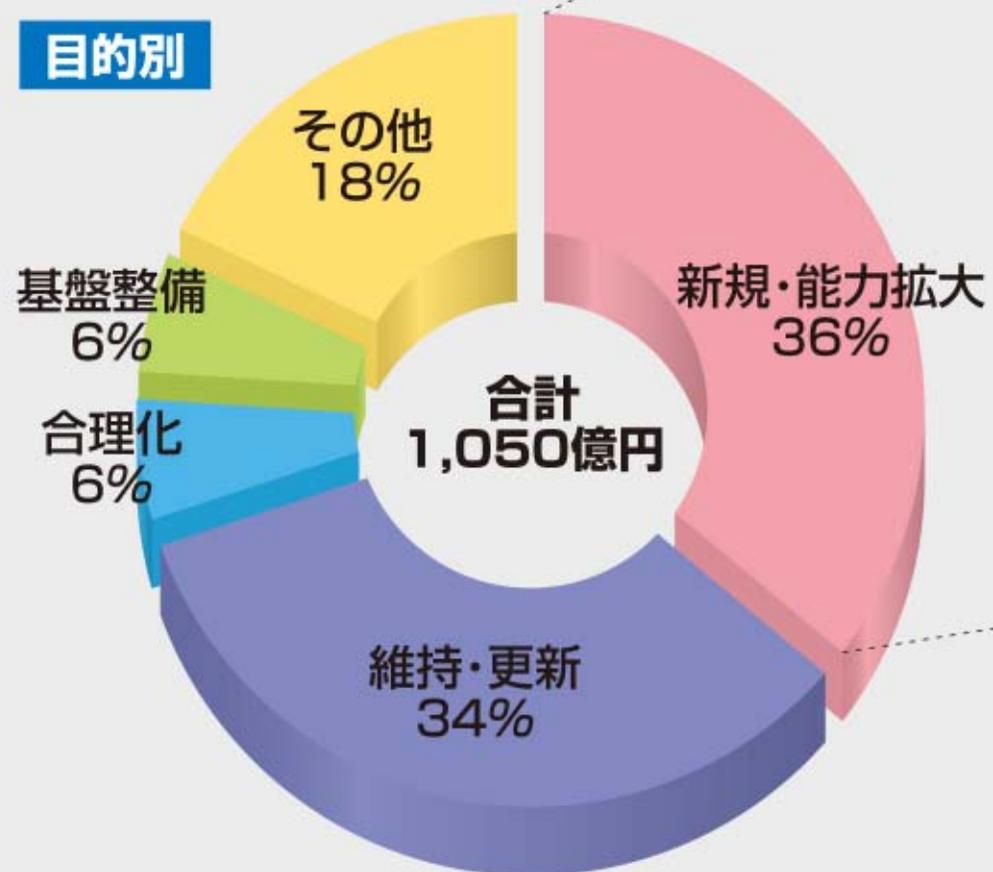
'09年度
黒字転換

再生事業からの脱却

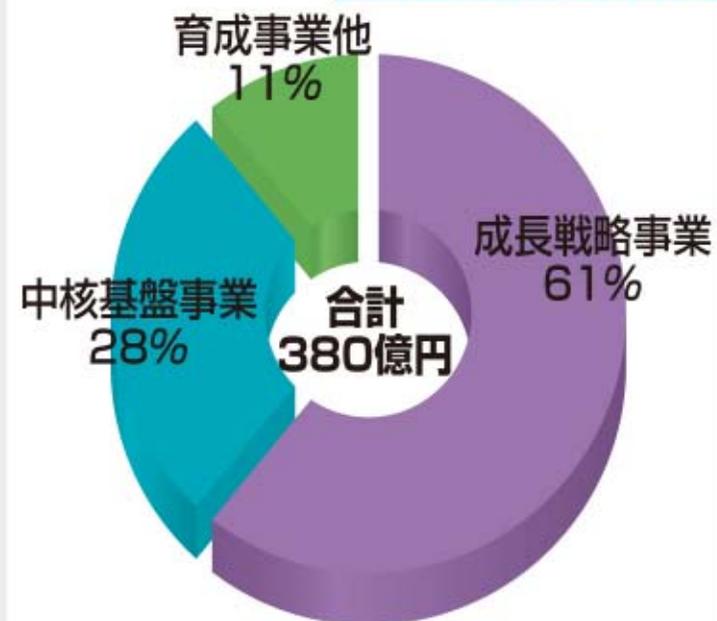




目的別

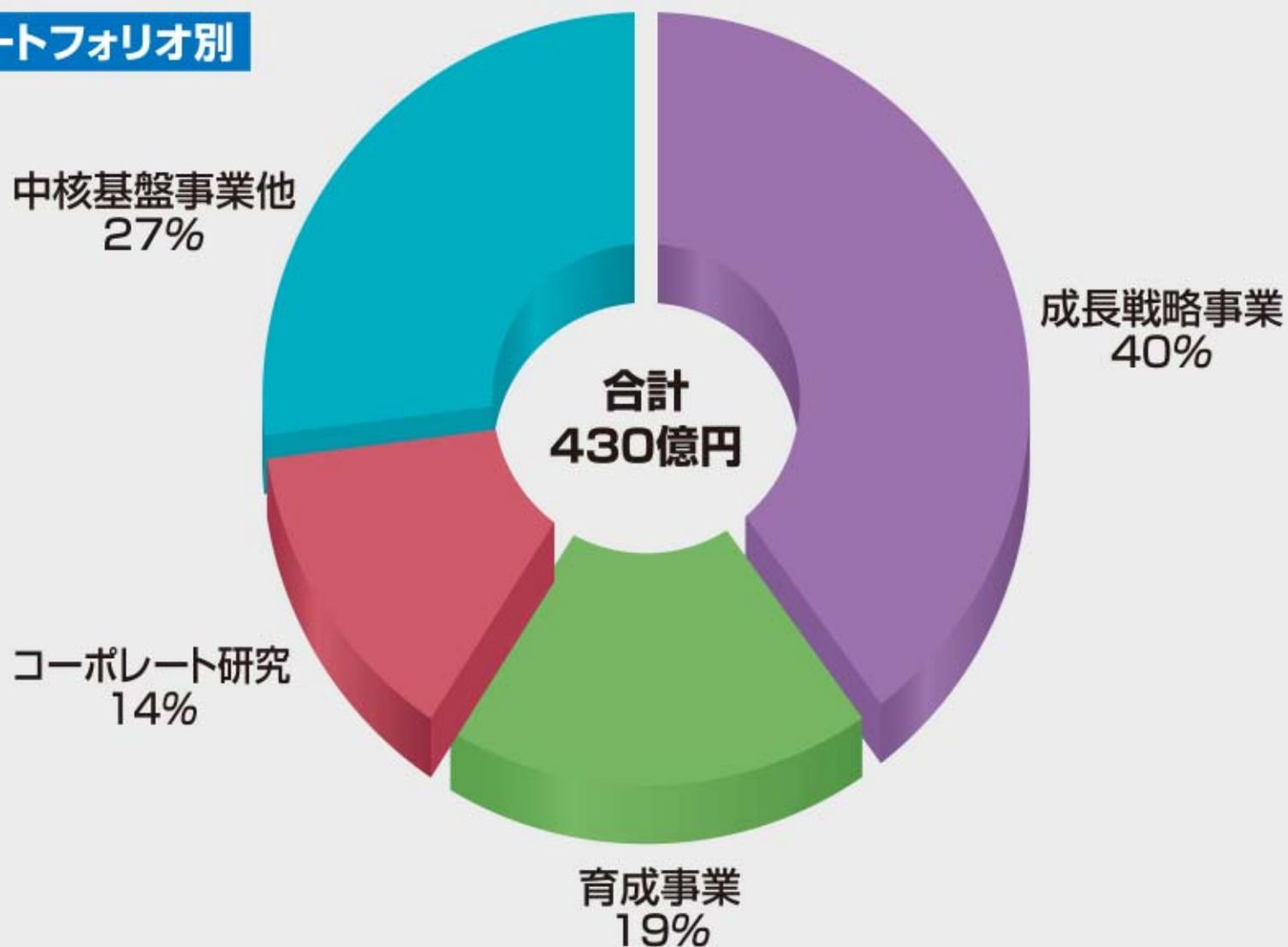


ポートフォリオ別





ポートフォリオ別



技術の翼 革新の心

Wings of technology
Spirit of innovation

UBE

本資料における将来の見通しに関する記載は、当社が現時点で合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績はさまざまな要因の変化によって見通しと大きく異なる場合もあり得ますことをご承知願います。そのような要因としては、主要市場の経済状況、製品の需給、原燃料価格、金利、為替相場などがあります。但し、業績に影響を及ぼす要因はこれらに限定されるものではありません。